



さとうくにお
佐藤 邦夫
(市民クラブ)

● 地域医療のあり方と将来は ● 市民新年交賀会のあり方は

質問 胆沢病院が弱体化しつつある現状から、市立病院と診療所がどうあるべきか、総合的に検討することが緊急の課題である。県立病院と民間医療機関との役割分担を明確にし、水沢病院の将来像を描いて欲しい。水沢病院については建物、設備の老朽化が著しく進んでいる現状から、移転・新築を考えるべきだと思うし、県立病院などと定期的に話し合う常設の協議会を立ち上げることを提案したい。

市長 次期「岩手県保健医療計画」に沿い、地域医療における市立病院、診療所のあり方と、機能分担と連携強化などを図る（仮称）奥州市立病院・診療所改革プランを策定して、目指すべき姿を明確にしたい。また県立病院との常設の協議会については、設置の方向で検討する。

病院管理者 提案に関しては同感である。移転新築によって、胆江保健医療圏の急性期医療維持機能を確保する以外にないと考えている。実現には多額の建

設費が必要になるので、市が新年度策定する「市立病院・診療所改革プラン」の中で検討され位置づけられるよう、市と協議したい。

質問 水沢で開催される奥州市新年交賀会で、市政功労者表彰が行われる。多くの市民の方々に参加していただくためにも、各区から必ず1人は選出し、また議員や公務員OBが中心の選出ではなく、各地域で目立たないながらもコツコツと長年地域のために貢献してきた、いわば「縁の下の方たち」のような方も選んで欲しい。合わせて長年の「内助の功」をねぎらうためにご夫妻でご招待したらいかがか。

市長 ご提案のように前向きに検討する。



老朽化が進む総合水沢病院



なかにしひでとし
中西 秀俊
(創政会)

● 江刺区内診療所は奥州病院の医師派遣で存続へ ● 安定的に一年後も継続を願う

質問 梁川診療所への水沢病院の医師派遣打ち切りの経過は。

市長 同院は病床稼働率100%となり、救急受入れを一時停止したこともあり、病院から市側に医師の負担軽減や診療体制の見直しを求められている。現在の医療の資源を集中管理し、最大の効果を発揮することが市全体の医療向上や市民の安心安全の確保につながる。

質問 診療所を安定的に継続するために関係機関への協力要請行動は。

市長 奥州病院にお願いし了解をいただいたので継続できるように進める。平成25年度は江刺区内に開設されている4診療所すべてにおいて奥州病院が医師派遣を請負い、一年間の診療継続は可能となる見通しである。

質問 開設により地域の高齢者や交通弱者は金銭的、身体的、時間的負担の軽減が図られる。都市部の医療の充実・集中は大切だが、通院することが困難になる高齢者も増加する。診療所

を存続し、「継続」させていく必要があるのではないかと。

市長 江刺区内診療所の市立の運営は平成25年度末で廃止する。診療や健康管理を行えるかかりつけ医による診療が患者の命を守る。

質問 来年度の診療スケジュールや次なる交通手段の一手は。

市長 従来の月2〜3回の診療で患者にとって安全安心を十分担保する。交通手段の確保は公共交通対策の観点からも適切な方策を考える。超高齢社会にも対応した在宅医療の拡充など、地域住民が安心して生活できるよう、へき地医療における医療のあり方について検討する。



江刺区内診療所に派遣される奥州病院の遠藤医師と地元の看護スタッフ